

ロータリー:
変化をもたらす

例会プログラム

第1770回例会 2018年6月12日(火) 場所:うもれぎ亭

点鐘 会長 川尻達也
ロータリーソング 『我等の生業』
会長挨拶並びに報告
幹事報告
委員会報告
出席報告・ニコニコBOX報告
本日のプログラム
会員卓話 『娘の留学中間報告』小神会員
会員卓話 『貴重な経験』岡崎会員

【会長挨拶並びに報告】

●6/11のあじさい祭りのお手伝いが、北日本新聞に掲載されました。

【幹事報告】

配布物: 次回例会出欠票、理事会議事録

回覧物: 前回例会週報、南砺RC50周年記念事業ご臨席の御礼、あじさい祭りチラシ、5RC次年度会長幹事会議事録



5/28 MPH 瀧田副会長

【委員会報告】

地区青少年交換委員の吉田会員より報告。

●6/10に地区国際青少年交換委員会ならびにクラブ国際青少年交換委員長会議がありました。次年度の派遣の募集は地区で10名程度、出国当時に高1か高2で17歳6か月未満の方。派遣先は、アメリカ、カナダ、オーストラリアです。応募締切は8/31書類必着となっています。

出席報告

会員数	32名
本日の出席者	19名
メイクアップ済	1名
本日の出席率	80.00%
5/29修正出席率	77.78%
(メイクアップ 4名)	

【本日のプログラム】

会員卓話 『娘の留学中間報告』 小神会員

●小神真奈美さんの留学生活前半の報告です。

8/27にカナダのトロント空港に到着しました。初めの1週間は時差ボケがひどくてとても大変でした。9月には地区大会があり、初めて他の留学生に会い、半分くらいの人は英語がほぼ完璧で、会話するときやコミュニケーションをとることがとても大変でした。初めてのロータリーウィークエンドはキャンプでした。テントの中で寝たり、カヌーをしたりしました。カナダに行き、初めて暑いと思った日は遊園地に行ったときです。遊園地が日本のものとは規模が違い、楽しかったです。学校初日には友達がたくさんできて、みんながいろんなことを教えてくれて、うれしかったです。カナダには日本という野良猫と同じようにリスやスカンクがいて驚きました。英語のクラスで遠足に行きました。サンクスギビングという祝日に鳥の丸焼きを作っているのを見てとても怖かったです。平日には紅葉狩りに連れていってくれたり、かぼちゃ畑、教会、水族館などロータリーの人たちが連れて行って楽しくしています。ウィークエンドで食べ物をつめておく場所やかぼしゃのランタンを作りコンテストで優勝したり、ハーフマラソンを仮装して歩いたりしました。ハロウィンのお菓子を貰いに歩いたのが一番楽しかったです。隣のクラブに行ったり、学校でのハロウィンやロータリーのパーティー、ホストシスターができたときはとても嬉しかったです。クリスマス頃にはお菓子の家を作ったり、クリスマスウィークエンドに行ったりしました。スケートは滑れなくてヘルメットとグローブを渡されてとても恥ずかしかったです。一学期は音楽をとっていて、クリスマスのコンサートでフルートを弾きました。2番目のホストファミリーとはよくゲームセンターやローラースケートスイミングに行きました。冬にはキャンプに行き、かまくらのようなものを作ってそこで寝たり、スノウエンジェルを作ったり、スノーシューイングやクロスカントリーをしたりしました。カナダならではのいい経験だと思います。みんなに色々な場面で助けられながら過ごしています。あと1か月半頑張って楽しんで、日本に帰りたいです。



ニコニコBOX

◆川尻会長

小神さん、岡崎さん、本日卓話よろしく
お願いいたします。

◆石井幹事

小神さん、岡崎さん、本日卓話よろしく
お願いいたします。

◆藤井会員

結婚記念日祝いを頂きました。

◆片口会員

都合により早退します。

会員卓話 『貴重な経験』 岡崎会員



介護の仕事をして13年、本当にこの仕事に向いていて、やりがいのある仕事だと思っています。叩かれた事、蹴られた事、つねられた事、たくさんあります。それでも介護の仕事が好きです。訪問の時も担当していますが、2ヶ月前その方の自宅を訪れると、いつもと違う様子にすぐ気が付きました。呂律が回らず目線も定まらず、脳梗塞だと思い、事業所にすぐ連絡し、救急要請しました。訪問は自分一人で判断し、行動しなくてはならないので、玄関ドアを開ける時、いつも緊張感があります。

今から10年前、大変貴重な経験をさせて頂きました。あの経験はおそらく、最初で最後だと思います。当時、短期間お泊りされるショートステイという部署の主任をしていました。通常、短期お泊りですが、ずっとお泊りされている90歳のおばあちゃんがおられました。ご高齢のため、車いすでフロアにお連れしても目を閉じておられる事が多く、お話される事も少なく、しかし時々「まずい、うるさい、へたくそ」と言われる事が、私達はこれを元気な証拠としていました。月日が経ち、発語もなくなり、食事・水分も僅かしか入らなくなった頃、ご家族様との話し合いが行われました。ご家族様は病院へは移さず、こちらで自然な形で最後を迎えたいので、何があっても救急車を呼ばないで欲しいとの答えでした。私達はより一層注意を払い、たくさん話しかけて1口でも2口でも水分を摂って欲しいと願いケアしていました。その日、私は休みで自宅にいました。子供達を学校へ送り出したところに他のスタッフから電話が掛かってきました。「今、呼吸が止まりました」私はすぐに向かいました。頬を触ると、まだ温もりを感じ、寝ておられるようでした。私は施設長にお願いをしました。「お風呂に入れてあげたいのですが…」施設長は快く許可して下さいました。私達は生前と同じように注意を払い、お風呂に入っていました。ご満足されたかは聞きませんが、ご家族様より涙ながらに感謝の言葉を頂戴しました。そのおばあちゃんのお陰で、何とも言えない達成感を味わわせて頂きました。本当に貴重な経験でした。

7年後の2025年には、要介護者が全国で770万人、富山県は7万2千人と推計されています。

最後に私のおばあちゃんは、来年2月で100歳です。